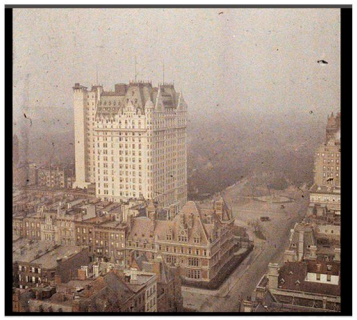


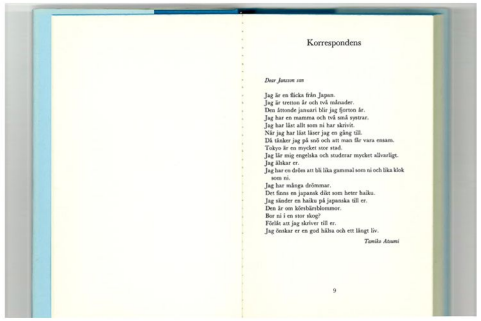
Post-Card project
ポスト・カード(カードの後/葉書) プロジェクト
2008-
プロジェクト・インスタレーション(1組8枚の絵はがき)
絵はがき各10x15cm

プロジェクトは、移民としてビザの更新のため9ヶ月間、旅する自由を奪われ、どこかを訪れることを夢見ていた経験に端を発する。手にするものに元の作品を思い描いて想像することを要求する、美術作品の複製としての葉書に関連してアイディアを展開させた。

他の作家の手による、旅や眺め、距離をあつかった芸術作品—私の大好きなそれらの作品を紹介するための、作品の複製や記録から制作するはがきコレクション。異なる時代、異なる国の、小説家や篤志家、パフォーマー、現代芸術家などさまざまな「作家」。「旅」は、壮大な長旅から心のなかの空想まで。世界を旅することが容易くなった現代において、褪せてしまったかもしれないロマンチックな特質がある。

アイヴィン・ネステルードは、展示会場内の壁のレンガの一つを取り外し、外に広がる美しいイタリアの風景を見せるための遠足に連れ出した。中山二郎は、身近で目にも留まらない塵から、星の輝く夜空や北の吹雪のような眺めを演出し、リサ・オッペンハイムは、イラクに駐在する兵士の撮った夕陽の画像をニューヨークの日の入りに重ねた。相互理解と平和を望んだアルベール・カーンは、二〇世紀初頭に世界各地の風景や暮らしをカラー画像に記録して集め、共産党員の祖父を持つフリア・メンシュは、ユートピアのような社会主義国を訪れた彼の足跡を辿り、再構築した。ツインタワーの間の四〇メートルの距離を歩くことを夢見たフィリップ・プチは、その道のりに六年以上の歳月を費やした。マリア・リンドベリィは、訪ねることのできない遠くの街に自分宛ての局留め郵便を送り、数週間後にその軌跡を記す押印で覆われた手紙が戻ってくるのを待ち、トーヴェ・ヤンソンは、少女が作家に送った書簡を通して、彼方の国の離れ島に住むずっと年上の作家への憧憬を物語った。

どの作品も、たった一枚の写真には到底収まらず、 複製では伝わらない。一枚のはがきから、ここにはない、見えない、その作品までの「遠い」隔たりは、見るものの想像力を要求する。



(top) Albert Kahn (FR), *Archives of the Planet*, 1908-1931, projects [photo: New York, November 1908, by Alfred Dutertre]

(first left) Eivind Nesterud (NO), *Void*, 2004, site specific installation
(first right) Philippe Petit (FR), *World Trade Center Walk*, 1974, performance
(second left) Tove Jansson (FIN), *Correspondence*, 1987, short story
(second right) Julia Mensch (ARG), *Republic of Orwochrom*, 2009-2010, video
(third left) Lisa Oppenheim (US), *The Sun is Always Setting Somewhere Else*, 2006, slide projection
(third right) Jiro Nakayama (JP), *Poussières*, 2006, installation
(forth left) Albert Kahn (FR), *Archives of the Planet*, 1908-1931, projects [photo: Rio de Janeiro, September 1909, by Auguste Léon]
(forth right) Maria Lindberg (SE), *Poste Restante*, 1970-, project